

# PAM通信 コラム

2008年8月発行

## <第17回>タイトル：本当の話

これは私が実際に体験した話です…。

高校生のとき（まだ障害を持つ前）に友だち数人で深夜に待ち合わせをして、幽霊が出る噂のある寺を探検に行きました。その寺はダラダラと続く長い坂道の上であり、坂道の左右は深い林になっていました。私たちが寺に向けて坂道を上がって行くと左側の2～3m離れた辺りから、小さく「チリーン」と鈴の音が聞こえているのに気がつきました。私たちが坂道を上がっているのにもかかわらず、その鈴の音は常に真横から聞こえてきているようでした。私たちは首に鈴をつけた猫が平行して歩いているのかもしれない…と思いました。坂道を上がり切って寺の門に着くと、誰が先頭で寺に入って行くか相談になりました。幽霊は寺の裏側にある池の辺りに出ると噂されていたので、そこから先へ行くのは怖かったからです。そこで横に並んで行こうと言うことになり、少し段がある寺の門を一緒に“せえの！”とまたごうとしました…。そのとき「ジャリ！ジャリ！ジャリ！」と大きな鈴の音が響きました。それはまるで「入るな！」と言われているように感じられ、私たちは上がって来た坂道を叫び声と共に大急ぎで走り下りました。

もう1つはオーストラリアに行ったときの体験です。泊まった田舎の宿は環境保護に力を注ぎ、水道の蛇口から出る水が茶色く濁っているような所でした。宿に着いてお茶を一杯飲んだ私は疲れていたこともありベッドで浅い眠りに落ちました。眠りの中に「シャワールームで血だらけで座っている白人のおじさん」が現れ、恐怖と共に目が覚めました。後で部屋のシャワールームを見に行ってみると、夢で見たものと同じくバスタブの代わりに椅子が置いてあるタイプでした。このときにはもう障害を持っていたので、私が無意識にシャワールームを見に行くことはありえません。

こんな体験はしていますが、私は幽霊がいるとは思っていません。これらの体験は幽霊がいなくても説明がつくからです。ただし、いないとも思っていません。もし幽霊に会えるのなら是非会って話がしたいと思います。そんなわけで、昨年8月の第5回のコラムで「心霊探検」の同行者募集をしたことに引き続き、今年も「幽霊に会いに行く人大募集！」です。我が家の介助者は「幽霊に会いに行く介助だけはしたくない！」と強行に主張する人も多く…。これも立派な介助の仕事だとは思いますが、介助者にもできない介助を拒否する権利はあるし…。

（同行希望者は事務局Tまでご連絡下さい）



パティシエアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : [pam@w7.dion.ne.jp](mailto:pam@w7.dion.ne.jp) 緊急時 : 090-1406-9367

